

# 介護事業部 ヘルパーセンター 好事例シリーズ⑩

「母親への依存度が強い  
生活から少しずつヘルパー  
への支援に移行」

～事例分類～

健康状態 / 理解・行動 / ADL /

家事・IADL / QOL / 介護状況

ヘルパーさんとのかかわりが  
どんな変化をもたらしたのか、  
読んでみるまも♪



スライド全5枚

## 【事例情報】

○40歳代 ○男性 ○障害区分3

【Before】令和3年3月頃

ほとんどの事を母親に手伝ってもらい、自分ひとりで何かを行う気持ちもなかったご利用者。母親には内部疾患があり身体的に介護負担が大きいと感じつつもヘルパーの導入にふみきれずにいたところ、相談室からのアプローチもあり、家事支援（掃除）でのヘルパー派遣を開始した。



【After】令和3年6月頃

ヘルパー訪問に緊張しながらもスムーズに毎回訪問を受け入れるようになり、ヘルパーにも慣れてきて**母親介助の入浴からヘルパーの支援を希望されるようになった。**

# 経過



阻害要因・背景	サービス・ケア内容	サービス提供のねらい
他者との交流も少なく、母親とだけの生活であった。	自宅に人が入る事にも慣れ、他者との交流を持つ。	母親への依存心を少しずつ解消していく。
精神疾患による体調不良があり、日々の生活リズムが定まっていない。	ヘルパーの定期的な訪問。	定期的に訪問することで、時間感覚を身につけ、訪問時はカーテンを開ける。
他者の受け入れが困難。	ヘルパーの人選。	本人の意欲を引き出す。

# 事例提出者からのアピールポイント

項目	内容
利用者への理解とヘルパーの人選、ヘルパーとの情報共有	<b>ヘルパーの人選についてはかなり時間をかけた。</b> ヘルパーにも利用者を理解してもらい派遣した。本人にヘルパーが訪問する事の心地よさと人との関わりを思い出してもらおうように心がけた。掃除だけではなく、入浴という身体介護まで受け入れていただけた事については良かったと思う。

## 💡事例へのコメント💡

担当するヘルパー職員の、利用者理解を深めながら支援を始めることは、ご利用者との信頼関係を深めるためにとっても大切なことと考えます。信頼関係を深めるための手段として、**ヘルパー職員が訪問することの心地よさをご利用者に感じてもらうことや人との関わりを良好に保つことを心がけ実践**したことが、良い成果をもたらしたと考えます。母親への依存度が少なくなると同時に、ご利用者が自立して生活するための自信が、少しずつ生まれることを期待しています。

# 私たちと一緒に 働きませんか♪

お友達を紹介して  
ほしいまも

ヘルパー募集のご案内はこちら！



社会福祉法人札幌市社会福祉協議会  
介護事業部



まもりん